

事 務 連 絡
平成 2 9 年 1 1 月 2 8 日

各都道府県教育委員会
教科書関係事務主管課 御中

文部科学省初等中等教育局教科書

平成 3 0 年度使用教科書に係る音声教材の需要数調査結果について

平成 2 9 年度 7 月 1 8 日付け事務連絡にて依頼した標記調査について、御協力いただきありがとうございます。別添のとおり、調査結果を取りまとめましたので、お知らせします。

本調査は、音声教材が発達障害等のある児童生徒の学習において一定の効果があると報告されていること、またそのような状況から近年需要が高まっていること等から、昨年度から実施しているものです。

つきましては、本調査結果を踏まえ、引き続き音声教材を必要とする児童生徒の的確な把握に努めていただくとともに、一層の普及促進に御留意いただきますようお願いいたします。

なお、音声教材は、拡大教科書等とは異なり、必要が生じた時点で随時使用の申請が可能であることから、今後、学校等から音声教材に関する問合せ等があった場合は、別紙の音声教材製作団体を案内するなどの情報提供をお願いいたします。また、文部科学省のホームページにおいても情報提供を行っておりますので、御活用ください。

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、学校現場においても「合理的配慮」が求められてきているところです。学校における音声教材の利用においては、「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」の趣旨に鑑み、障害等のある児童生徒が、十分な教育を受けることができるよう御配慮をお願いいたします。

○参考：文部科学省HP 音声教材関連掲載ページ
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/1374019.htm

(本件連絡先)

文部科学省初等中等教育局教科書課
教科用特定図書普及促進係
教科用特定図書電磁記録係 松本、中山
住所：〒 100-8959
東京都千代田区霞が関 3-2-2
TEL：03-5253-4111（内線 4743）
FAX：03-6734-3739

平成30年度使用教科書に係る音声教材需要数調査結果

<小学校・中学校 合計>

○都道府県別必要児童生徒数・需要数

県名	必要児童生徒数	需要数
北海道	236	1,753
青森県	13	65
岩手県	26	103
宮城県	25	132
秋田県	6	18
山形県	75	455
福島県	18	132
茨城県	100	382
栃木県	525	2,604
群馬県	41	227
埼玉県	56	611
千葉県	79	532
東京都	130	856
神奈川県	329	2,106
新潟県	239	1,234
富山県	15	121
石川県	81	324
福井県	315	704
山梨県	17	96
長野県	207	1,101
岐阜県	34	137
静岡県	59	357
愛知県	136	848
三重県	19	176
滋賀県	92	595
京都府	210	963
大阪府	569	1,031
兵庫県	269	1,579
奈良県	80	455
和歌山県	155	571
鳥取県	67	236
島根県	105	654
岡山県	43	417
広島県	189	901
山口県	154	604
徳島県	83	517
香川県	69	264
愛媛県	32	109
高知県	344	1,437
福岡県	258	1,578
佐賀県	12	63
長崎県	42	298
熊本県	42	177
大分県	10	59
宮崎県	24	84
鹿児島県	10	36
沖縄県	133	1,082
計	5,773	28,784

○学級種別等別必要児童生徒数・需要数

種別	必要児童生徒数	需要数
通常学級	2,855	12,756
特別支援学級	2,711	14,682
特別支援学校	207	1,346
計	5,773	28,784

※平成29年10月(10月末日提出期限)。

※必要児童生徒数とは、障害により音声教材を必要とする又は必要と見込まれる児童生徒として学校等が判断した者の数。

平成30年度使用教科書に係る音声教材需要数調査結果

<小学校>

○都道府県別必要児童数・需要数

県名	必要児童数	需要数
北海道	221	1,598
青森県	11	56
岩手県	25	88
宮城県	21	85
秋田県	6	18
山形県	70	412
福島県	11	84
茨城県	94	325
栃木県	497	2,529
群馬県	34	142
埼玉県	52	561
千葉県	68	435
東京都	78	548
神奈川県	309	1,967
新潟県	183	990
富山県	15	121
石川県	73	257
福井県	206	455
山梨県	9	34
長野県	163	1,008
岐阜県	18	76
静岡県	53	316
愛知県	116	695
三重県	12	121
滋賀県	58	372
京都府	193	839
大阪府	483	855
兵庫県	175	1,365
奈良県	68	298
和歌山県	101	474
鳥取県	54	174
島根県	77	377
岡山県	43	417
広島県	173	716
山口県	146	533
徳島県	41	241
香川県	50	115
愛媛県	24	93
高知県	290	1,185
福岡県	221	1,263
佐賀県	11	47
長崎県	38	246
熊本県	35	132
大分県	8	40
宮崎県	22	48
鹿児島県	9	34
沖縄県	123	1,026
計	4,788	23,811

○学級種別等別必要児童数・需要数

種別	必要児童数	需要数
通常学級	2,389	10,390
特別支援学級	2,240	12,412
特別支援学校	159	1,009
計	4,788	23,811

○種目別需要数

種目名	需要数
国語	7,951
書写	977
社会	2,974
地図	316
算数	4,385
理科	1,960
生活	470
音楽	1,089
図画工作	1,157
家庭	267
保健	729
道徳	1,536
計	23,811

○使用学年別需要数

使用学年	需要数
1	1,988
1・2	794
2	3,235
3	3,896
3・4	1,980
4	3,846
4-6	316
5	3,795
5-6	1,033
6	2,928
計	23,811

※平成29年10月(10月末日提出期限)。

※必要児童数とは、障害により音声教材を必要とする又は必要と見込まれる児童として学校等が判断した者の数。

平成30年度使用教科書に係る音声教材需要数調査結果

<中学校>

○都道府県別必要生徒数・需要数

県名	必要生徒数	需要数
北海道	15	155
青森県	2	9
岩手県	1	15
宮城県	4	47
秋田県	0	0
山形県	5	43
福島県	7	48
茨城県	6	57
栃木県	28	75
群馬県	7	85
埼玉県	4	50
千葉県	11	97
東京都	52	308
神奈川県	20	139
新潟県	56	244
富山県	0	0
石川県	8	67
福井県	109	249
山梨県	8	62
長野県	44	93
岐阜県	16	61
静岡県	6	41
愛知県	20	153
三重県	7	55
滋賀県	34	223
京都府	17	124
大阪府	86	176
兵庫県	94	214
奈良県	12	157
和歌山県	54	97
鳥取県	13	62
島根県	28	277
岡山県	0	0
広島県	16	185
山口県	8	71
徳島県	42	276
香川県	19	149
愛媛県	8	16
高知県	54	252
福岡県	37	315
佐賀県	1	16
長崎県	4	52
熊本県	7	45
大分県	2	19
宮崎県	2	36
鹿児島県	1	2
沖縄県	10	56
計	985	4,973

○学級種別等別必要生徒数・需要数

種別	必要生徒数	需要数
通常学級	466	2,366
特別支援学級	471	2,270
特別支援学校	48	337
計	985	4,973

○種目別需要数

種目名	需要数
国語	722
書写	128
地理	292
歴史	344
公民	162
地図	156
数学	725
理科	541
音楽	335
器楽	145
美術	249
保体	191
技術	191
家庭	188
英語	604
計	4,973

○使用学年別需要数

使用学年	需要数
1	960
1・2	292
1-3	1,343
2	972
2・3	448
3	958
計	4,973

※平成29年10月(10月末日提出期限)。

※必要生徒数とは、障害により音声教材を必要とする又は必要と見込まれる生徒として学校等が判断した者の数。

教科用特定図書等の普及促進について

音声教材について

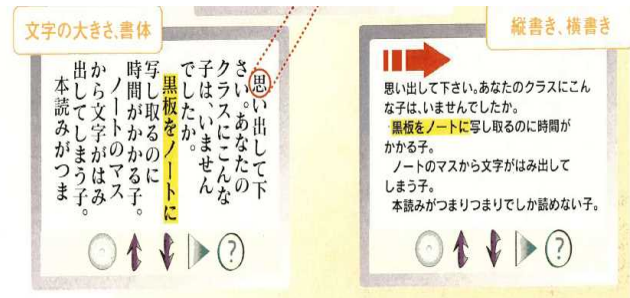
音声教材とは、発達障害等により、通常の検定教科書では一般的に使用される文字や図形等を認識することが困難な児童生徒に向けた教材で、パソコンやタブレット等の端末を活用して学習する教材です。「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」（教科書バリアフリー法）に基づき、教科書発行者から提供を受けた教科書デジタルデータを活用し、ボランティア団体等が製作しています。文部科学省から委託を受けた以下の団体が調査研究を行い、音声教材を製作し、読み書きが困難な児童生徒に無償で提供しています。

音声教材製作団体及び教材の概要

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会

(<http://www.jsrpd.jp/>)

- 教材名：「マルチメディアデイジー教科書」
- 主な特徴：音声、本文等テキスト、挿絵等の図版を含む。ハイライト機能あり。音声は肉声及び合成音声。視覚と聴覚から同時に情報が入り内容理解がしやすい。小・中学校の教科書を中心に作成。パソコンやタブレット端末にて利用可能。
- 利用者実績：約4,600人（H28年度）



東京大学先端科学技術研究センター

(<http://accessreading.org/about.html>)

- 教材名：「AccessReading」
- 主な特徴：音声、本文等テキスト、挿絵等の図版を含む。ハイライト機能あり。音声は合成音声。視覚と聴覚から同時に情報が入り内容理解がしやすい。小・中・高校の教科書を対象。Word版のものとEPUB版の2種類を作成。パソコンやタブレット端末にて利用可能。
- 利用者実績：約564人（H28年度）



NPO法人エッジ

(<http://www.npo-edge.jp/>)

- 教材名：「音声教材BEAM」
- 主な特徴：音声のみの教材（テキストや挿絵等の図版はなし）。音声は合成音声。小・中学校の国語・社会を中心に作成。スマートフォン、ICレコーダー等、mp3ファイルが再生可能な機器で利用可能。データ容量が軽く、操作が簡便。
- 利用者実績：約192人（H28年度）

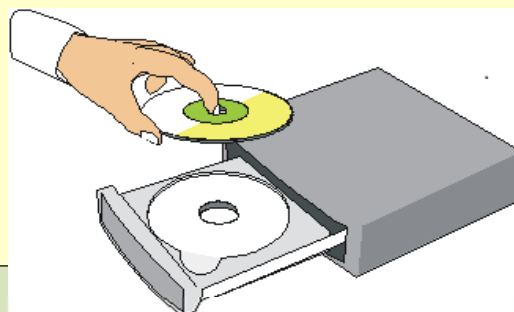


文部科学省委託事業「音声教材の効率的な製作方法等に関する調査研究」

音声教材のサンプル集について

文部科学省では、発達障害等により、通常の検定教科書では一般的に使用される文字や図形等を認識することが困難な児童生徒に向け、教科書デジタルデータを活用した音声教材の効率的な製作方法等について実証的に研究しています。

これにより製作された音声教材の普及促進を図るため、音声教材のサンプル集(CD)を作成し、全国の市町村教育委員会や教科書センターに配布しています。



音声教材ってそもそもどんなもの？

どうやって使うのか、一度視聴してみたい。

うちの子に音声教材が有効かどうか試してみたい。

このような場合は、音声教材のサンプル集を是非ご活用ください！

○サンプル集はどこで視聴できますか？

全国の市町村教育委員会や教科書センターに配布されているので、最寄りの教育委員会等にお問い合わせください。

○サンプル集はどのような内容ですか？

文科省の委託により音声教材を製作している以下の3団体の音声教材をお試して視聴することができます。

- 公益財団法人リハビリテーション協会の「マルチメディアデージー教科書」
- 東京大学先端科学技術研究センターの「Access Reading」
- NPO法人エッジの「音声教材BEAM」



○サンプル集は誰が視聴・利用できますか？

発達障害等により読み書きが困難な児童生徒やその保護者・学校関係者等、そのほか当該教材の普及促進を目的とした利用が可能です。